

かるがも

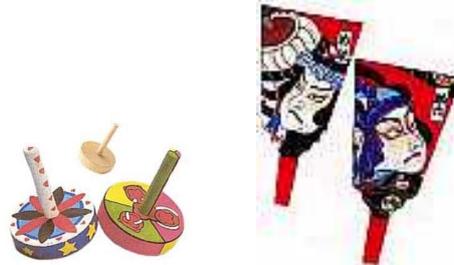


第43号

発行所 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>



病院長 伊達裕昭



新年のご挨拶

平成28年新春のご挨拶を申し上げます。

皆様には年末年始をいかがお過ごしになられたでしょうか。この冬はこれまでのところ例年になく暖かく感じる日が多いようです。過去のデータから、こうした暖冬の年は大雪や大雨など荒れた天候になる可能性が高い、とも予想されています。この後も気候の変化には十分注意して、寒暖の差などから体調を崩すことが無いように気をつけてお過ごし下さい。

日本にこうした暖冬や大雨、大雪などの異常気象をもたらす原因の一つとして、地球の裏側、南米ペルー沖の海水温の上昇をもたらす「エルニーニョ」と呼ばれる現象が知られます。現在発生しているエルニーニョは、過去60年で最も強力なものの一つらしく、この影響で昨年の夏にはアフリカ東部のエチオピアがかつてない雨不足に見舞われ、農作物の不作から約820万人が食料援助の必要な状況に陥っていると伝えられています。ユニセフ(国連児童基金)は、アフリカで合わせて推定1,100万人の子どもが、この異常気象のために飢餓や疾病、水不足の危機に陥っていると発表しています。



南米ペルー沖で海水温が上昇すると日本や世界各地で異常気象がもたらされるという地球規模の連鎖は、まるで「風が吹けば桶屋が儲かる」ということわざを地でいくかのようです。このように、ある狭い範囲の場所で起きた小さな出来事が原因となって、直接には関係なく思える遠く離れた場所に大きな影響が表れることは、気象の面では少なくないそうです。気象学

者のローレンツが発表した、「ブラジルの1匹の蝶の羽ばたきはテキサスで竜巻を引き起こすか?」という題名の講演から、「バタフライ効果 (butterfly effect)」とも呼ばれています。

ほんの些細な出来事が波及して無関係と思えるところで大きな結果になって表れる、このバタフライ効果のような現象は気象分野に限りません。

いま問題となっているPM2.5(微小粒子状物質)の大気汚染、呼吸器障害は、その元を辿ると中国で冬場にビルや家庭で使う石炭や練炭の暖房に行き着くとも言われます。個々の家で暖をとるという日常行為が、巡り巡って近隣の国々の住民の健康にまで影響し疾病を増すとしたら、これは危惧すべきバタフライ効果です。

昨年度のノーベル医学・生理学賞を受賞された大村智博士は、日本全国を回って土壌を集め、



何千株という菌を分離培養し続けたそうです。その中から発見した有機化合物を使って寄生虫の特効薬を創薬し、多くの人類を救ったことが今回の受賞に繋がりました。日本各地の土を集めるという小さな蝶の羽ばたきが、遠くアフリカで2億人を失明から救うという大きな風のうねりに繋がったわけで、これは喜ばしいバタフライ効果と呼べないでしょうか。

私たち病院職員の日々の小さな行為の積み重ねも、来院する多くの子どもたちの健康と笑顔を生み出し、最終的には県が推進する「子どもたちが健やかに成長できる環境づくり」へと繋がっていく、そんなうれしい「バタフライ効果」をもたらすと信じて、今年も一同は励んで参ります。

今年が皆様にとって平穏で、子どもたちの明るい未来を描くことができる良い年になりますよう、お祈り申し上げます。

